



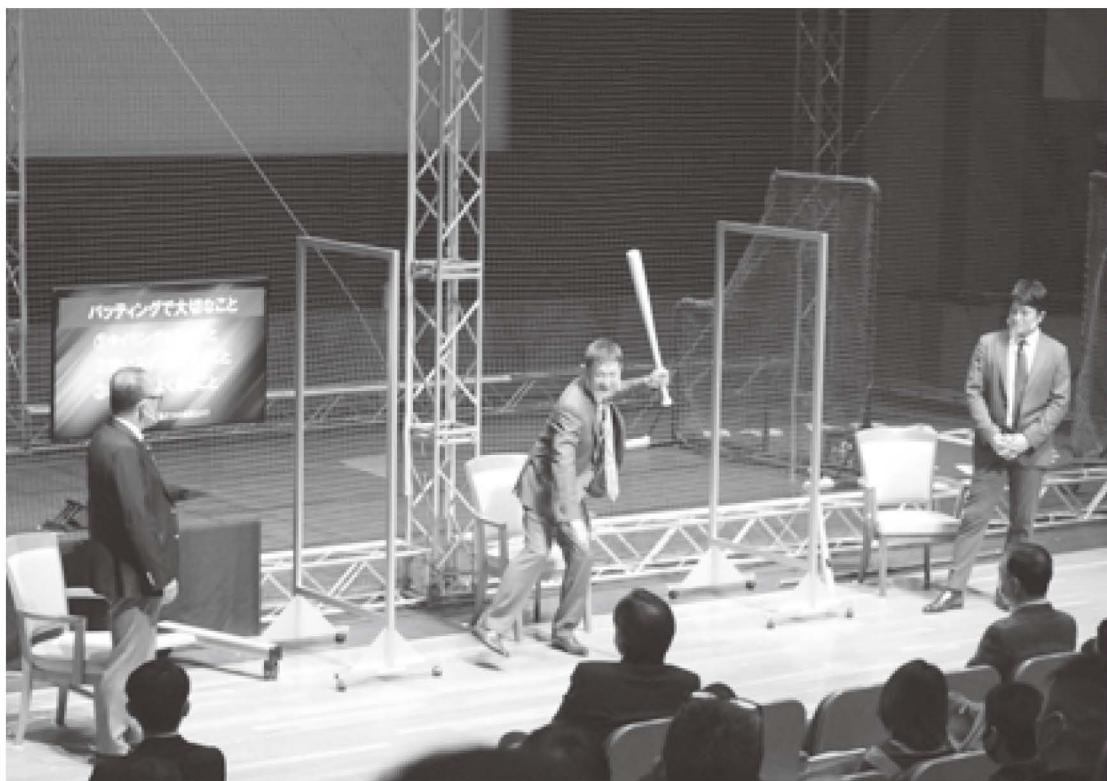
ASAHI University News Letter

vol.131  
January 2021

発行日／隔月1日  
編集・発行／朝日大学 総務部



朝日大学HP



左から後藤寿彦客員教授、立浪和義氏、高橋由伸氏

Topic

## 朝日大学公開講座・ぎふベースボールアカデミー開催 「日本一を目指して～打撃の極意～」

一流打者から学ぶ、魂を込めた打撃に込める思い

## 未来を担う人材育成

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

2020年は、COVID-19による感染が欧州、米国を始め、全世界に急拡大し、3月にはWHO(世界保健機構)がパンデミックを宣言、わが国においても4月に出された緊急事態宣言による外出や営業活動の自粛、また東京オリンピックの開催延期、春・夏の甲子園大会の中止などさまざまなイベントが中止され、国民の社会生活・経済活動に大きな打撃となりました。本学においても、2019年度卒業式、そして2020年度入学式の分散開催、対面授業の中止に伴う遠隔授業の実施や三医療機関における感染対策の徹底などに追われました。

こうした状況下で各種大会が中止される中、全日本フェンシング選手権大会女子フルーレ個人戦で、本学フェンシング部の辻すみれ(法学部3年)さんは、惜しくも2連覇を逃しましたが準優勝し、東京オリンピック出場に期待がかかります。また、ラグビー部の東海11連覇と9年連続の全国大学選手権出場など、本学体育会は、明るいニュースを届けてくれました。

さて、2020年11月にはアメリカ大統領選挙が行われ、選挙に関する法廷闘争など糺余曲折を経て新たな大統領が1月に誕生しますが、米中の経済対立、COVID-19の感染拡大に伴い低迷する経済活動など、2021年は世界経済の先行きに大きな難題が山積しています。人類が、この未曾有の困難に打ち勝ち、世界中の人々が安心して暮らせる社会が訪れる信じています。

本学の2021年度事業計画及びこの事業計画を実行するための予算は、この1月に開催される理事会において審議され、承認を得る予定となっております。少子化に伴い18歳人口の減少が加速していく中で、2021年度も全学部全学科で、本学に対する社会的評価をさらに高め、学力の3要素を多面的・総合的に評価する入学者選抜試験を実施し、公正に評価することをアドミッションポリシーに明確に示し、高大接続改革を進めてまいります。

法学部及び経営学部

においては、公務員試験合格や公認会計士・税理士などの難関資格の取得を目指すなど、両学部の特色・魅力をさらに伸ばしてまいります。保健医療学部看護学科においては、卒業生全員の看護師国家試験合格を目指してま

ります。また、2020年度に完成年度を迎えた保健医療学部健康スポーツ科学科においては、保健体育教員やスポーツ指導者などを養成し、地域社会のニーズに応えるよう特色を伸ばしてまいります。歯学部においては、優れた歯科医師になるための資質を磨くため、歯学モデルコアカリキュラムに基づく教育の徹底及び歯科共用試験(CBT、OSCE)の対策強化並びに附属3医療機関と連携した実習を通じて高い臨床能力の養成に努めてまいります。また、歯科医師国家試験の合格率向上のため、さらなる試験対策の充実を図り、全国トップクラスの合格率を目指してまいります。

わが国のSociety5.0、欧州のHorizon Europeなど、各國が唱える多種多様な社会ビジョンの共通項は、科学技術イノベーションによる社会変革です。こうした社会変革の時代にも、高等教育機関には人材育成と知的創造活動やイノベーション創造の中核として、一層重要な役割を果たすことが求められています。本学では学長のリーダーシップの下、教職員が一致団結して、「建学の精神」に基づく人材育成を行っていくことで、未来を担う人材育成という使命を果たしていく所存です。

本年も皆様のご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。



理事長 宮田 淳

## GREETING

## ポスト・コロナの世界を創造する

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症との戦いに終始した一年でした。2月に、健康スポーツ科学科の短期海外研修先であるハワイ大学マノア校を宮田理事長と共に訪れたときには、すでにオアフ島でも感染が拡がりつつありました。

日本国内での第一波を受けて卒業式、そして入学式を分散開催としました。盛大な式典で卒業生を送り出す、また教職員や在校生とともに新入生を迎えることが出来なかつたことを誠に申し訳なく思っております。

「学生の学びを止めない」ことを合言葉に、教職員が一丸となって新年度からの授業準備を進め、4月より遠隔授業の配信を開始しました。従来型の対面授業と比較すると、学生、そして教員の満足度が低かった部分もありましたが、一方で、時間と場所を選ばない学修のスタイルは、新しい教授法の開発へつながりました。

5月末に緊急事態宣言が解除され、6月より医療系の学部を中心に、対面授業や実習を再開するとともに、家計が

苦しくなった学生への経済的支援にも即応いたしました。

秋にはオンライン会議システムを利用して、テキサス大学や北京大学、メキシコ州立自治大学といった海外の提携大学との交流活動を再開し、学生諸君に笑顔が戻りました。

一方、附属医療機関のスタッフは、今この瞬間も、高い専門性と医療人としての誇りを持ってコロナウイルスと戦い、市民の健康を守り続けています。彼らの倫理感と勇気には、学長として敬意を表したいと存じます。

朝日大学は今年、創立50周年を迎えました。もう一度、教育の原点に立ち返り、「学生の学びを止めない」、そして「地域医療を守る」ため、努力を続けてまいります。明けない夜はありません。皆さんと共に、ポスト・コロナの世界を創造していきましょう。



学長 大友 克之

## 健スポ1期生にエール！

あけましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年はコロナ禍でオリンピックを始め様々なイベントが延期や中止となる中、本学においてもオンデマンドによる遠隔授業が実施され、キャンパスはどことなく寂しい状況が長く続きました。前学期の後半からは一部で対面授業が始まりましたが、コロナ禍以前のような賑わいのあるキャンパスに戻るには今しばらくの時間がかかりそうです。

そんな中、2020年度が完成年度となっている保健医療学部健康スポーツ科学科の1期生がいよいよこの3月に卒業を迎えます。昨年度のように学科別の学位記授与式になるかも知れませんが、暖かく1期生の門出を祝してあげたいものです。今後の1期生の活躍を期待しております。

また、オリンピックの延期に伴い、2021年度の各学部の学

年歴も2020年度の学年歴を踏襲して、例年とは大きく異なることになっております。不確定要素が多いコロナ禍において、オリンピックが無事開催され、ボランティアや選手を含め本学に繋がるすべての人達の活躍を期待し、応援したいと思っております。

本学では、スポーツ界で活躍する人材や公認会計士試験合格者の輩出など文武両道を掲げ、高い規範意識を持ち、建学の精神に謳われた人材の育成に教職員が一丸となって取り組んでおります。皆様のご理解とご支援を賜り、「魅力ある大学」として更なる発展を目指してより一層の努力をしていく所存です。本年もどうぞ宜しくお願ひいたします。



副学長 森下 伊三男

## 予測困難な時代の人材育成

新年あけましておめでとうございます。本年も皆様方にとって素晴らしい年となりますよう心からお祈り申し上げます。

昨年の初めに感染拡大が危惧され始めた新型コロナウイルスCOVID-19による影響は、2月に海外渡航の注意喚起、禁止が発令され、本学の公式行事も3月12日の卒業式をはじめとし、その後のほとんどの行事が中止や縮小、延期となりました。今では全世界がwith coronaによるnew normalの社会生活を余儀なくされており、海外ではワクチン接種の開発等明るい兆しもみえてきてはおりますが、感染者数の抑制は未だなされていません。人類は過去に何度かこのような未曾有な事態を経験してきましたが、その度に新しい価値観を得る絶好の機会と捉えて、新たなイノベーションにより、それまでの生活様式をガラッと変化させて乗り越えてきました。今回のコロナ禍で大学教育では、感染拡大の予防を最優先に、人ととの接触や3

密を避けるための緊急避難的措置としてのオンライン授業が導入されました。その功罪は議論されるべきものとは思いますが、今後は、現状のオンラインシステムにおける幾つかの問題点を解決した革新的システムの普及が待たれます。



副学長 倉知 正和

現在は予測困難な時代といわれています。そんな中、2040年問題に向かって、国は大学に対して“社会を積極的に支え、論理的思考力を持って改善していく資質を有する人材の育成”を求めており、これは本学の建学の精神に謳っている内容と共通したものと考えます。

教職員の皆様方のなお一層のご支援とご協力をお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

## 50周年:振り返り、そして新たな出発年

新年あけましておめでとうございます。謹んでお慶び申し上げますとともに、本年も皆様方にとって素晴らしい年になりますことを心からお祈り申し上げます。

さて昨年を振り返りますと、新型コロナ感染に始まり、その猛威は年末から新年にかけても衰えることはなさそうに思えます。大学にとって大変重要な行事である卒業式や入学式などがやむなく大幅縮小ということになってしまいました。また一方、楽しみにしていた東京オリンピックも延期となり、今年に開催されることになりましたが、コロナ禍が早く収束し平常に戻ることを祈るばかりです。

朝日大学は1971年に創学され、歯学部では第51期の新入生を迎えようとしています。半世紀を迎えるこの年、今ほど建学の精神である「国際未来社会を切り開く社会性と創造性、そして人類普遍の人間的知性に富む人材の育成」が求

められている時代はないのではないでしょうか。

そのためわれわれ教員はまず学生教育を第一に考え、コロナ感染予防を徹底した上で、対面あるいは遠隔講義か、遠隔でもオンラインか…、またさらには実習(演習)のあり方等々を徹底的に考え、新しい発想の下で工夫をし、学びを継続させながら有為な人材を輩出していく使命があります。本学は今年、50周年を迎えます。今一度「立ち止まり、振り返り、そして新たな出発」をするのに相応しい年ではないでしょうか。



副学長 田村 康夫

教職員の皆様の一層のご支援とご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

### 謹賀新年

法学部長・法学研究科長 大野 正博

経営学部長 小畠 信史

経営学研究科長 板谷 雄二

保健医療学部長 小島 孝雄

歯学部長・歯学研究科長 田村 康夫

留学生別科長 虫賀 文人

朝日大学病院長 日下 義章

医科歯科医療センター長 藤原 周

PDI岐阜歯科診療所長 柴田 俊一

事務局長 田中 聰

## 高等学校英語弁論大会を開催

### 英語で思いをスピーチ

11月28日、第36回高等学校英語弁論大会を開催しました。コロナ禍の折、全国36の高等学校から65人の応募があり、書類審査を通過した17人がオンライン形式で発表しました。

書類審査を通過した高校生は、スピーチを動画にして大会に提出。それを大会当日に審査し、審査結果はライブ配信で発表されました。

#### 受賞者一覧

受賞名	題名	氏名
最優秀賞	To the Future of Girls and Boys	加納 幸希 (岐阜県立大垣北高等学校2年)
優秀賞	Desires to Protect Okinawans	宮城 叙衣 (沖縄尚学高等学校1年)
奨励賞	Sexual Harassment	巖田 トリシャ (熊本県立第一高等学校2年)
岐阜県教育委員会賞	What You Can Become	又吉 エンジェル 優 (沖縄県立那覇国際高等学校3年)
瑞穂市長賞	Persuasive Messages for US from Greta Thunberg & Rachel Carson	大矢 つきな (岐阜県立岐阜商業高等学校2年)
岐阜市長賞	Internet Slander	猪野 友貴 (帝京大学可児高等学校2年)
中日賞	"Me, Too"	福井 ユキ (滋賀県立草津高等学校3年)

後援：岐阜県教育委員会、瑞穂市、岐阜市、中日新聞社  
NHK岐阜放送局、沖縄県教育委員会、在名古屋米国領事館



表彰式の様子

合格おめでとうございます!

## 本学初の保健体育科教員が誕生

保健医療学部健康スポーツ科学科に在籍する矢幡侑菜さんが、滋賀県の令和3年度公立教員採用試験に合格しました。

本学初となる保健体育科教員が誕生することになります。

矢幡侑菜さんは、日頃の学業の他に体育会のフェンシング部に所属し、副キャプテンとして部をまとめ、まさに文武両道を体現しました。

時間を見つけて、教職

課程センターに通い勉

学に励む姿は、教職を

目指す後輩に夢と希望

を与えてくれました。



健康スポーツ科学科4年 矢幡侑菜さん

## 岐阜県英語教育研究セミナーを開催

### ポストコロナ社会を切り拓く教育について

11月28日、岐阜県英語教育研究セミナーを開催しました。文部科学省高等教育局私学部参事官(学校法人担当)を務める大杉住子氏をお招きして、「持続可能な社会の創り手の育成を目指した教育と学校経営」についてご講演いただきました。

大杉氏は、「withコロナ時代となり、学校教育のあるべき姿が問われています。教員は、子どもたちに持続可能な社会を創るための見方や考え方ができるように、教育する必要があります」と語り、自身を感じた3つの重要なこと (1)グローカル化の加速した学びのあり方 (2)レジリエンスの高い教育環境づくり (3)社会に開かれた教育課程について解説しました。



これからの教育について解説する大杉住子氏

## 先輩が母校で語る

### 後輩たちの目標に

11月19日、経営学部経営学科を2016年度に卒業し、公認会計士試験に合格後、現在は大手監査法人に勤務している高橋於斗音さんが、母校である岐阜県立東濃実業高等学校で授業の講師を務めました。

高橋さんは、自分が経験し大切だと思う4つのこと (1)夢(目標)を持つこと (2)今のうちに色々なことを経験すること (3)コミュニケーション能力を高めること (4)諦めない忍耐力を付けることについて語りました。参加した高校生にとって、活躍する先輩の姿から自らの将来について考える貴重な機会となりました。

高橋さんは、公認会計士を目指し、本学の体育会会計研究部で、日々資格取得に取り組んでいました。



自身の経験について語る高橋於斗音さん

朝日大学公開講座・ぎふベースボールアカデミー

## 「日本一を目指して～打撃の極意～」

魂を込めた一打を求めて  
プロフェッショナルたちが熱く語った打撃論

2020年度朝日大学公開講座・ぎふベースボールアカデミーを12月8日、ぎふ清流文化プラザ長良川ホールで開催しました。立浪和義氏、高橋由伸氏を講師に、コーディネーターとして朝日大学客員教授・岐阜県野球協議会理事長の後藤寿彦氏を迎え、打撃に関する熱い思いを語っていただきました。また、講師二人によるバッティングの実演や中学生への打撃指導も行われました。

### 打つ時に大切なこと

バッティングにおける大切なことについて、立浪氏は、「如何に自分の間合いでボールを引きつけてバットを振るべきか、このタイミングが大事」と説明し、高橋氏は、「タイミングも重要だが、体全体を使ってバットを振ることが大切だと思います」と語りました。



### 理想的な“ステップ”を意識すること

1・2・3とタイミングを取ってバッティングを行う場合のポイントについて、立浪氏は、「“2”を長くして、しっかりと割れ（上半身は後方に、下半身は前方に、と逆方向へ動いている状態）」というのを意識するようにしています」と説明し、高橋氏は、「ピッチャーが腕を振りはじめて一番遠くにいる時に、自分も遠くに行くイメージをして、一番距離を取るというのを意識しています」と、実際にバットを構えて分かりやすく解説しました。



### 継続は力なり

日本一になるための秘訣について、「どうしたら野球が上手になりますか？」という質問をよく受けるという立浪氏は、「1日5分でも10分でも課題を解決するための時間を作り、日々根気よく続けること。これを続けることによって心が鍛えられると思います」と語りました。後藤氏が、「甲子園で2度日本一を経験されていますが、やはり、甲子園球場の風は違いますか」と質問すると、立浪氏は、「大阪大会は強豪が多く甲子園に出場することも厳しかったです。そういうプレッシャーの中で、レベルの高い野球をさせてもらったことが一番大きかったと思いますし、厳しい環境にも恵まれたのではないかと思います」と高校時代を振り返りながら答えました。

### 思い出の練習方法

幼少期に、バットではなく竹ざおを使った素振りをしていたという高橋氏は、「竹の先が地面に触れないように振ると、腕だけでは振れないで、なるべく体の近くを通して振る練習をしていました」と語り、立浪氏は、「長い竹を振ったことはないですが、いい練習方法だと思います」、後藤氏は「今やると危ないので、そもそも竹を持ってくることが難しいですね」と会場の笑いを誘いました。高橋氏は、用意された竹ざおを使って素振りを披露しました。



野球評論家  
**立浪 和義**

たつなみ・かずよし／1969年生まれ。PL学園では主将として1987年の甲子園で春夏連覇を達成。同年ドラフト1位指名で中日ドラゴンズに入団。新人王、ゴールデングラブ賞（1995年～1997年、2003年）を獲得。2009年現役を引退後、2013年WBC打撃コーチに就任し、日本代表をベスト4へ導く。





野球評論家  
高橋 由伸

たかはし・よしのぶ／1975年生まれ。桐蔭学園高等学校、慶應義塾大学を経て、1997年ドラフト1位(逆指名)で読売ジャイアンツに入団。ベストナイン賞(1999年、2007年)とゴールデングラブ賞(1998～2003、2007年)を獲得。2015年現役を引退し、読売ジャイアンツ第18代監督に就任。



## プロフェッショナルによる打撃指導

対談後、講師の二人に中学生への打撃指導をお願いしました。

「実践知」と呼ばれる超一流のプロフェッショナルが持つ技術と打球速度や角度の「数値」を確認して、実践的な指導を行いました。

体の中でタイミングを取る意識をしてみようか。そうすれば、インコースがスムーズに行けると思うよ。



ピッチャーの投げる動作をよく確認して、強く振るのではなくて、ゆっくりゆっくりボールを捉えてみようか。

バットに力を入れて持ちすぎているので、軽く持つようにしようか。右足と持っているバットが遠いところにいってから振ってみようか。



指導をいただいて、自分のバッティングで足りていない所が確認できました。学んだことを自分のものにして、これから野球人生に生かしていきます。



## 野球少年へのメッセージ

高橋氏からは、「今はバッティングを数値で確認できます。データとこれまで野球選手が蓄積した経験(方法)をうまく活かして、練習に励んで欲しいです。理解するだけではうまくなりませんので、積極的に取り組んでください」と、また立浪氏からは、「華やかなプロ野球の世界でも、日々の反復練習が基本です。根気よく練習を続けることが上達の近道です。野球も上手くなつてもらいたいと思いますが、社会に出てからも、野球人はしっかりしている、と言われるような人に成長してください」とメッセージが贈されました。

### コーディネーター

朝日大学客員教授  
岐阜県野球協議会理事長  
**後藤 寿彦**



ごとう・としひこ／1953年生まれ。1994年、慶應義塾大学野球部監督に就任し、高橋由伸選手を育てるなど、チームをリーグ優勝3回、明治神宮野球大会優勝に導く。

### 司会進行

朝日大学経営学部  
ビジネス企画学科准教授  
**林 卓史**



はやし・たかふみ／1975年生まれ。慶應義塾大学に入学し、東京六大学で通算21勝(15敗)。日米大学野球日本代表にも選出され優勝。慶應義塾大野球部で後藤監督の下、高橋由伸氏と同期。

# SPORTS

# MEDICAL

## ラグビー部

### 全国大学ラグビー選手権大会出場

#### 悔しさを乗り越えて次へ

11月14日、長良川メドウ（岐阜市福光）で、全国大学ラグビー選手権大会の東海・北陸・中国・四国代表決定戦があり、本学ラグビー部は環太平洋大学を29-10で破り、9大会連続9回目の全国大学ラグビー選手権大会への出場を決めました。

29日、パロマ瑞穂ラグビー場（名古屋市）で2回戦が行われ九州代表の福岡工業大学と対戦しました。本学ラグビー部員は、パスをつなぎトライを決めるなど、終盤までリードしていましたが、試合終了間際に逆転トライを決められ、24-28で惜敗しました。

残念ながら2大会連続の3回戦進出とはなりませんでしたが、ベスト8の夢が後輩たちに託されました。



ベスト8を目指して戦い抜いた本学ラグビー部員たち

## 自転車競技部

### 大会で好成績を収める

今年度も自転車競技部がさまざまな大会において、好成績を収めています。



日本一を目指して駆け抜ける

#### 2020全日本選手権トラックレース大会（ジュニア）

##### 男子3000m個人追い抜き

優勝（大会新記録） 安達光伸（経営学部経営学科1年）

#### 2020全日本大学自転車競技大会

##### 男子ケイリン 準優勝 森田一郎（経営学部経営学科2年）

##### 男子オムニアム 準優勝 棚瀬義大（経営学部経営学科3年）

##### 男子4000m団体 3位入賞

#### 第89回全日本選手権大会（トラック大会、オムニアム大会）

##### 男子4000m団体追い抜き 準優勝

男子4000m個人追い抜き 3位 安達光伸（経営学部経営学科1年）

## 新たに「睡眠医療センター」を開設

### 睡眠関連疾患を専門とする診療科

10月1日、朝日大学病院（岐阜市橋本町）に、睡眠時無呼吸症候群や過眠症などさまざまな睡眠に関する疾患に対して専門的な診断、治療を行う「睡眠医療センター」が開設されました。

同センターでは、大倉睦美教授が脳神経内科医としての豊富な経験を生かして、診断と治療を行います。

患者さまの睡眠状態を明らかにする脳波や眼球運動、呼吸状態などを測定する「終夜睡眠ポリグラフ検査」が可能な専門の病室を備えています。



開設された睡眠医療センター

## 文部科学省から表彰される

### 医学教育等関係業務功労者表彰を受ける

令和2年度の医学教育等関係業務功労者として、朝日大学病院放射線部診療放射線副技師長 渡邊一敏さん、朝日大学医科歯科医療センター歯科衛生部主任 岡直子さんが表彰されました。

医学教育等関係業務功労者表彰は、大学における医学又は歯学に関する教育、研究若しくは患者診療等に係る補助的業務に関し、顕著な功労のあった者を表彰することで、関係職員の士気を高揚し、医学又は歯学教育の充実向上を図ることを目的としたものです。



朝日大学病院放射線部  
診療放射線副技師長  
渡邊 一敏さん



朝日大学医科歯科医療センター  
歯科衛生部主任  
岡 直子さん

1980年に岐阜歯科大学附属村上記念病院（現：朝日大学病院）の診療放射線技師として入職。40年余りにわたり、放射線業務に従事し、また当院の健診センターにおける品質向上に貢献しました。

1982年に岐阜歯科大学附属病院（現：朝日大学医科歯科医療センター）の歯科衛生士として入職。38年余りにわたり歯科衛生士業務に携わり、患者さまに寄り添った口腔ケア管理の推進に貢献しました。